

まちづくり交付金 事後評価シート
榛原地区

平成25年3月

奈良県宇陀市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	奈良県		市町村名	宇陀市		地区名	榛原地区		面積	263ha			
	平成20年度～24年度		事後評価実施時期	平成24年度		交付対象事業費	1,759百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 道路(都市計画道路東町西峠線)、地域生活基盤施設(広場(ポケットパーク))、高質空間形成施設(街路灯設置)、高次都市施設(天満台地域交流センター)									
			提案事業	地域創造支援事業(まちづくり新規イベント実施事業、まちづくり促進観光客誘致事業、街路灯撤去事業)事業活用調査(歴史的建築物の改修・移築調査及活用計画作成事業、中心市街地の土地利用有効活用促進調査事業、榛原区道路整備構想の策定事業、事業効果分析事業)まちづくり活動推進事業(榛原区文化財調査事業、歴史文化・健康セミナー開催事業)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	削除/追加の理由							削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業	まちづくり促進観光客誘致事業	別の事業で取り組むことになった					影響なし				
	新たに追加した事業	基幹事業	観光案内所	歴史的建造物の保存活用により観光効果が期待でき案内所が必要になった					まちづくりの目標達成に向けプラスの影響があるが、指標がなく目標は据え置く。				
		提案事業	駅北階段付替事業、歴史的建造物の保存活用事業		駅北階段は道路との接続上付け替えが必要となり、歴史的建造物の保存活用事業は関連者等の取り組み環境が整ったため追加した。					歴史的建造物の保存活用事業は数値目標に影響し、駅北階段付替事業は数値目標への影響がプラスとなった。			
交付期間の変更	当初	平成20年度～24年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	駅北の通行量(車)	台/時	33	基準年度 平成18年度	60	目標年度 平成24年度	モニタリング	評価値 36	△	あり ○ なし	事業途中のため事業完了後フォローアップし、確定値を求める。	平成26年4月予定
	指標2	地域交流センターの利用度	回数/年	400	平成18年度	500	平成24年度		572	○	あり なし	施設の機能向上が図られ、利用回数は大きく上昇した。	なし
	指標3	歴史的文化的の保護・保存満足度	%	41	平成18年度	55	平成24年度		56	○	あり なし	目標値を若干超え事業効果がみられた。イベント事業、保存事業等を合わせて実施した成果とみられる。	なし
	指標4												
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標2												
4) 定性的な効果発現状況	<p>○歴史的建造物保存活用事業として整備した「あぶらや」は数少ない江戸の旅籠の歴史を伝える建物であり、かつ資料も保存されており、住民自らが建物、歴史記録等を残そうとしている。</p> <p>○歴史的建造物保存活用事業に合わせ開催された「歴史文化セミナー」も継続を望む声が多く寄せられている。</p> <p>○住民参加により事業に主体的に取り組んだことから、イベント事業の継続化の担い手が生まれ、旧市街地から新市街地へとまちづくりに取り組む機運が生まれている。</p> <p>○あぶらやを拠点とする観光ボランティアガイド制度もでき、「バスハイクツアー」の大型バスが来訪し、地区内外の人の動きを活発化させている。</p>												
5) 実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	計画に参加した住民によってイベント事業の実施主体がつけられ、また観光ボランティアの担い手として育っていった。 街路灯整備等のハード事業に合わせ、「まちづくり新規イベント実施事業」に取り組んだことでフリーマーケットや街道あかり祭り等は商工関係者だけでなく、多くの市民が参加することになり、中心市街地、街道のにぎわいづくりに貢献した。					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 今後ともまちづくりイベント事業を協働で継続して開催できるよう検討していく。	
	持続的なまちづくり体制の構築	観光ボランティアはすでに活動しているが、旧伊勢街道のまちづくりに取り組むまちづくり組織をつくらうとする機運が生じており、その力で歴史的建造物「あぶらや」の持続的な運営を担おうという動きにもなっている。					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 歴史的建造物「あぶらや」の管理運営主体を育て、まちづくり・観光の拠点としていく。	

様式2-2 地区の概要

榛原地区(奈良県宇陀市)まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
○自信と誇りと元気を取り戻し、にぎわいの溢れるまちづくりの推進 目標1 奈良県東部・山間部の核であり宇陀市の玄関口である、近鉄榛原駅前を中心とした整備改善による交通利便性や歩行者の快適性の向上 目標2 歴史的建造物の活用によるまちづくり市民活動の促進 目標3 住民の交流促進による地域コミュニティの活性化	駅北の通行量(車)	台/時	33	平成18年度	60	平成24年度	36	平成24年度
	地域交流センターの利用度	回数/年	400	平成18年度	500	平成24年度	572	平成24年度
	歴史的文化的保護・保存満足度	%	41	平成18年度	55	平成24年度	56	平成24年度



まちの課題の変化	○榛原駅北の道路整備が事業中のため、交通利便性の向上や歩行者の快適性の向上という課題解消に至っていないが、事業完了後はアクセス向上が見込まれ、商業サービス等の誘導が課題となる。 ○天満台東交流センターの建て替えにより、地域のコミュニティ形成はより向上した。今後は高齢化への対応がますます求められる。 ○歴史的建造物の保全活用については事業効果がみられ、観光交流客が来訪している。地域住民の間であぶらやの保存をきっかけに伊勢街道の町並み保存に取り組む機運が高まっている。今後はさらに回遊性を向上させることが求められる。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	○道路新設事業の完了をめざすとともに、近隣商業地域にふさわしい沿道のまちなみ誘導を図り、歩いて快適かつ歴史が残る歩行空間整備を図っていく。 ○今回取り組んだそれぞれの事業(駅北口、都市計画道路東町西峠線、ポケットパーク、あぶらや、駅前商店街、駅南口観光案内所)を一体的なものとし、駅と札の辻(あぶらや)を結び、歩いて周遊する道路が求められる。駅南口案内所から駅前商店街を経てあぶらやの旧街道に至り、東町西峠線の歩道を経て駅北口に至る周遊ルートを形成できるよう整備に努める。 ○今後とも伊勢街道保存会を中心とした街道のまちづくりを広く市民に周知させ、まちづくり活動の支援を図っていく。 ○地域の居場所づくり推進事業等により、高齢化対応の充実を図る。